2025年度 岡山大学大学院法務研究科 法学未修者入試A日程 小論文試験

[問 題]

<注意事項>

1. 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
2. 配付した物は次のとおりです。
 - ①[問題](本書。表紙を含めて2枚)
 - ②[文章](1～13頁。表紙を含めて14枚)
 - ③解答用紙(3頁。表紙を含めて4枚)
 - ④下書用紙(1枚)
3. 解答は、解答用紙に鉛筆又はシャープペンを用いて横書きで記入してください。
4. 解答用紙は解答の有無にかかわらず、必ず全て提出してください。解答用紙の持ち帰りはかたく禁じます。
5. 試験終了後、[問題]、[文章]及び下書用紙は持ち帰ってください。

問題 別添の〔文章〕を読んで、下記の各設問に解答しなさい。

【設問1】

筆者の「失敗」（〔文章〕2頁）の根底にあるものは何か、〔文章〕に即して述べなさい。（300字以内）

（配点70点）

【設問2】

外国語を会得しようとする場合に生じる問題について、〔文章〕中における筆者の主張を述べなさい。（800字以内）

（配点130点）

※ 出典：鈴木孝夫『ことばと文化（岩波新書）』（1973年）1頁以下（なお、出題の都合上、一部を省略・加工している。）。

【出題の趣旨】

特定のテーマについて書かれた問題文を読み、その内容を的確に理解できる能力をみるとともに、提示された設問について論理的かつ説得的に論述できる能力をはかることになる。

【採点の指針】

本問では、[文章] 中に具体例が多数示され、読者の理解を促進する構成がとられているので、そのような構成を踏まえつつ、[文章] の要点は何かを、正しく理解する必要がある。また、設問1においては「[文章] に即して述べなさい」という指示がなされ、設問2においては「[文章] 中における筆者の主張を述べなさい」という指示がなされているから、これらの指示に沿った解答がなされる必要がある。

上記を踏まえつつ、設問1において解答を求めた「筆者の『失敗』の根底にあるもの」および設問2において解答を求めた「外国語を会得しようとする場合に生じる問題」を、それぞれ十分に論じる必要がある。論じるべき内容やその説明が不足している答案、具体例にとられ過ぎている答案、問われていないにもかかわらず自らの意見を述べている答案、問われた内容に合致しないことを述べている答案には、低い評価が与えられる。